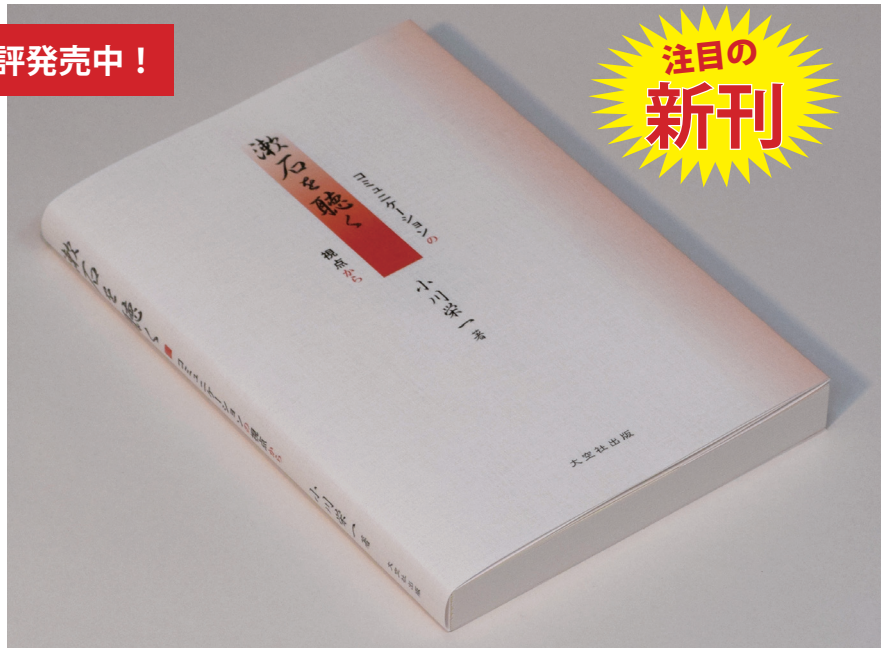
斬新な漱石論

ユニークな新視点の提示で
漱石の文学観と作品創造の“真意”を明らかにし、
とりわけ会話・ことばの襞、心理の表裏に
鋭く切り込み、耳を澄ます…。

2019年3月刊



吾輩は猫である　坊っちゃん　草枕　野分　二百十日　虞美人草　坑夫
三四郎　それから　門　彼岸過迄　行人　こころ　道草　明暗……

著者から読者へ

近代におけるコミュニケーション研究の資料として漱石の小説作品に大きな可能性を見出した。漱石作品は日本語の談話資料として着目に値する。その小説にはさまざまなタイプの会話が展開されているが、実に生き生きとしたことば遣いが感じ取れる。それを当時の音調にふさわしく朗読してみれば、当時の溌剌とした日本人の声が響いてくる。漱石は山の手ことばと下町ことばに精通していた。作品中にしばしば現れる下町ことばからは江戸っ子の心意気までも伝わってくるかのようである。各章扉に会話の一節を抜き書きしたのも【裏面参照】、その音調を読者に実感していただきたいからである。それも黙読でなく、ぜひ音読してほしい。会話の音調も漱石作品の魅力の一つといえよう。本書は、このような味読を通じて、漱石が『文学論』で展開した「F(認識)＋f(情緒)」理論をコミュニケーションの視点から明らかにしながら、漱石・作品像を立体化する試みである。

漱石を聴く

コミュニケーションの視点から

小川栄一 著
武蔵大学教授

学術資料出版
大空社出版

漱石を聴く　コミュニケーションの視点から

小川栄一 著〔大空社出版 2019 年 3 月刊〕

ISBN978-4-908926-61-7
菊判（151 × 224ミリ）・232 頁　並製・カバー装
定価（本体 3,600 円＋税）

好評発売中！

目次（抄）

第 1 章　漱石作品研究の意義
コミュニケーション史的研究の構想　漱石作品会話研究の方法　漱石の生い立ちと言語環境

第 2 章　漱石と近代日本語
漱石の「東京訛り」「江戸語」を意味する「江戸っ子」　漱石が「東京訛り」にこだわる理由

第 3 章　漱石の文学理論と会話の表現
「F＋f」理論　「文芸上の真」と「科学上の真」　通常のコミュニケーションと「F＋f」理論　f の発生とコミュニケーション　会話における「協調の原理」　漱石の会話観　会話の心理分析へ

第 4 章　漱石作品に現れるコミュニケーションの類型
不完全なコミュニケーション（不完全の原因が話し手 / 聞き手にある）　沈黙　洒落本『傾城買四十八手』における沈黙の会話　表現技法としての不完全なコミュニケーション

第 5 章　伝聞によるコミュニケーション
漱石作品に現れる伝聞表現　「能才」「うわさの公式」

第 6 章　翻弄のコミュニケーション
「翻弄の発言」（定義・分析・表現技巧）　漱石の創見

第 7 章　解釈のコミュニケーション
解釈と「F＋f」理論・F の推移　解釈と翻弄

第 8 章　「うそ」のコミュニケーション
「うそ」の談話的特質　漱石作品に現れる「うそ」の多用　「うそ」と「役割」「うそ」へのこだわり

第 9 章　漱石作品における演説の談話分析
近代における演説と漱石作品の演説　漱石の演説の文末表現　漱石の文学理論に基づく演説の試み　詭弁と含意の演説　聴衆に強い衝撃を与える演説　漱石の文学観を述べた演説

終章　漱石作品のコミュニケーション類型と文学理論

主要参考文献・資料一覧（言語・日本語に関するもの / 漱石・文学等に関するもの / 『漱石全集』の構成その他
索引（漱石作品用例番号索引 / 用例語彙索引 / 本文語彙索引）

吾輩は猫である　坊っちゃん　草枕　野分　二百十日　虞美人草　坑夫

三四郎　それから　門　彼岸過迄　行人

こころ　道草　明暗……

本文見本（縮小）

7.2　漱石作品に現れる「解釈」　119

要するに「解釈」すなわち受信者が受け取ったメッセージの伝達内容を復元する過程において、どのような復元をするか（＝どのように解釈するか）、そのしかたに応じて受信者の認識（F）も大きく異なる。したがって、「解釈」とはFの推移を起こす一つの要因である。受信者が異なればFが異なるのは当然として、同一の受信者（聞き手）であっても「解釈」のしかたが一定せず、時々刻々変化する場合には、Fも推移し、これに伴うfが発生する。漱石作品において、登場人物がさまざまな解釈を行う結果、Fも揺れ動くことが往々にしてある。これが人間の懊悩を表現する手段となっている。以下、漱石作品に現れる「解釈」について考察を進めよう。

7.2　漱石作品に現れる「解釈」

漱石作品には、「解釈」によって、言語または非言語によるメッセージの意味を明らかにしようとする例が多く見られている。

あなたの仰やる通りだと、下宿屋の婆さんの云ふ事は信ずるが、教頭の云ふ事は信じないと云ふ様に聞えるが、さう云ふ意味に解釈して差支えないでせうか」　（坊っちゃん・八　2-350-15　赤シャツの言）　128

「降らなければ、私一寸出て来やうかしら」と窓の所で立つた儘云ふ。三四郎は帰つてくれといふ意味に解釈した。　（三四郎・八の六　5-493-7）　129

女は瞳を定めて、三四郎を見た。三四郎は其瞳の中に言葉よりも深き訴を認めた。――必竟あなたの為にした事ぢやありませんかと、二重瞼の奥で訴へてゐる。　（三四郎・八の十　5-506-5）　130

医者は白いだぶだぶした上着の前に両手を組み合はせた儘、一寸首を傾けた。其様子が「御気の毒ですが事実だから仕方がありません。医者は自分の職業に対して嘘言を吐く訳に行かないんですから」といふ意味に受取れた。　（明暗・一　11-3-8）　131

以上はその一例であるが、「解釈」の多用は漱石作品の一つの特徴を表すも

＊漱石作品の全引用例に番号付

漱石の文学理論と会話の表現　第3章

＊各章扉に会話を抜き書き

一人が手拭で胸のあたりを撫で廻しながら「金さん、どうも、こゝが痛んでいけねえが何だらう」と聞くと金さんは「そりや胃さ、胃て云ふ奴は命をとるからね。用心しねえとあぶないよ」と熱心に忠告を加へる。「だつて此左の方だぜ」と左肺の方を指す。「そこが胃だあな。左が胃で、右が肺だよ」「さうかな、おらあ又胃はこゝいらかと思つた」と今度は腰の辺を叩いて見せると、金さんは「そりや癇気だあね」と云つた。

吾輩は猫である

著者紹介　小川　栄一（おがわ　えいいち）
現在、武蔵大学人文学部教授。博士（言語学）2006 年。
東京教育大学文学部卒業、筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科単位取得後退学。［主要著書］『延慶本平家物語の日本語史的研究』（勉誠出版 2008 年）、『平家物語長門本延慶本対照本文』（共編　勉誠出版 2011 年）、『岩波　日本語使い方考え方辞典』（共編　岩波書店 2003 年）、『漱石作品を資料とする談話分析　漱石の文学理論に裏付けられたコミュニケーション類型の考察』（科学研究費助成事業研究成果報告 2017 年）他

学術資料出版
大空社出版
資料に命を作品に心を形にして伝える。
www.ozorasha.co.jp
東京都北区中十条 4-3-2（〒114-0032）
TEL:03-5963-4451 / FAX:03-5963-4461
eigyo@ozorasha.co.jp